

# 斜里平野の郷土資料に遺された春耕期の風害と カラマツ耕地防風林の効果に関する記述

中川昌彦

## 斜里平野におけるカラマツ耕地防風林の必要性

斜里平野では4月後半から6月上旬にかけて、フェーン現象で乾燥した強い南風が吹きつけ、畑地の土を種子や種薯もろとも吹き飛ばすことがあります。この季節風は斜里平野において、根室風、斜里岳おろし、海別おろし、馬糞風などと呼ばれ、この風害から畑を守るためにカラマツやポプラを主体とした耕地防風林が発達しました。(写真-1)

筆者は光珠内季報189号で、十勝平野の郷土資料において開葉前や開葉直後も含め春耕期におけるカラマツの防風効果が高く評価されていたことを紹介しました。

斜里平野でも十勝平野と同様に、春耕期のカラマツ耕地防風林の防風効果に対する認識

が郷土資料の中に証言として遺されている可能性があります。そこで網走市、斜里町、清里町、小清水町の各市町立図書館に蔵書されている郷土資料のうち、市町村史および開拓記念誌を総当たりして、土壌、気象、農業の歴史、林業の歴史、耕地防風林の部分等を閲覧し、耕地防風林と風害の関係の記述について収集しました。ただし、網走市の能取地区、越歳地区、嘉多山地区、卯原内地区、平和地区、岬地区、二見ヶ岡地区は斜里平野外のため閲覧の対象外としました。

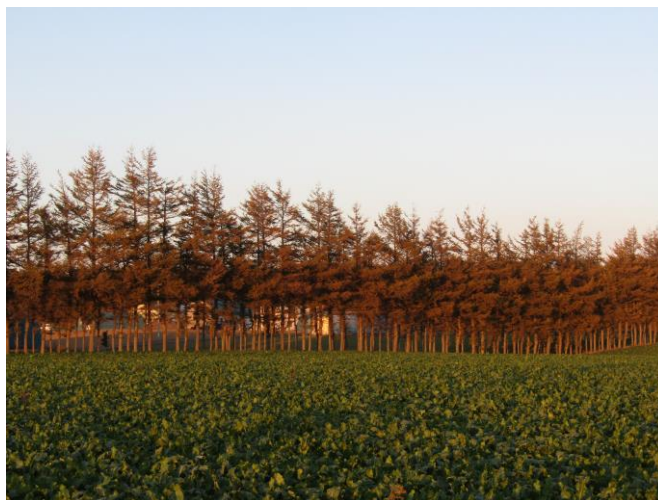


写真-1 秋のカラマツ耕地防風林 (小清水町)

## 春耕期におけるカラマツ耕地防風林の防風効果を高く評価している記述

詳細は中川(2018a)に報告しましたが、ここではその中でもカラマツ耕地防風林の防風効果を高く評価している記述について、市町村ごとに、文章を原文のまま「」内に転記して紹介します。

### ①斜里町

- ・斜里町史第二巻(斜里町史編さん委員会, 1970, p.132)「耕地内の立木もほとんど切りつくされた大正九年ごろから、毎年たて続けの強風がおこり、農家は致命的な損害にうちひしがれた。当時この強風をぞくに根室風といい、根室国境から吹きおろすこの強風は、毎年春の五月上旬から六月初旬まで一ヵ月も続き、肥料の入った表土はもちろん種子種苗のはてまでごっそり吹き飛ばしてしまったのだからたまったものではない。とくに当時は今日のような耕地防風林の備えが無かったので、強風のあたりはものすごく、まったく手の施しようがなかったと当時の古老は語っている。」「そこでこの風害による現状打解の道は、耕地防風林を造成して、気温を緩和する以外になしとして、このころから耕地防風林の造成がさかんになり、毎年農業実行組合を中心に部落民総出で部落内の号線ごとに植林をおこなった。」
- ・記念誌「富士のあゆみ(六十周年記念協賛会編集委員会, 1978, ページ番号の記載なし)「昭和の初期も依然として不景気が続き、その上風害や冷害凶作などの連続で離農する者が続出し、部落の戸数も、

全盛期の三分の一にも満たない三十戸余りになった。このようなことが昭和十年ごろまで続いたのである。この対策として、耕地防風林の造成やかん菜と酪農などの奨励がされた。「富士は風害地といわれるだけあって風害に耐えかねて随分離農していったものです。その跡を買い受け、風防林の成長期間に作付け方法を考え変えていった人が二、三年風害がなかったので生きながらえたと思う。」

- ・越川 開基八十周年・開校七十周年記念誌（記念誌委員会，1985，p. 41，pp. 47～50）「五月，春耕播種の頃，時として南東寄りの風が強くなることもあり，このためしばしば農作物に風害を受けたことから，現在では耕地保護のため防風林が部落内の全地域にわたって整備されている。」「開墾が進むにつれ，春先の風害を生ずることに対応して農場では昭和七・八年頃落葉松を以て防風林造成にあたったため農地深耕事業の推進と相まって現在の恵まれた農村となったのである。」「大正時代の末期から，連続する風害予防のために耕地防風林の設置が行われ，これらの努力がみのって農業経営もやや安定し，耕地面積も多くなった。」「この年は春の農耕期から百日以上も雨が降らず，日照り続きに加え強風が吹き荒れ，六号道路に四尺（一米二十糎余）以上の火山灰や土砂が吹きだまり，農作物にも大変な被害が出ました。このようなことから，父が札幌からポプラの苗木をとりよせ防風林造成にとりかかりました。このことがきっかけで防風林があちらこちらに出来て今日の姿になったと考えられます。」
- ・川上郷土史（斜里町川上開基八十周年記念事業協賛会，1983，p. 59～60）「私の在職した越川は，風害のために，二〇〇戸余の戸数は，七〇戸位に減少して居りました。越川の南北二里は，立派な耕地であったものが，強風のため，表土の肥沃な壤土が飛散し，火山灰や赤土が露出し，スカンコが生ずると言うやせ地と化した訳です。しかし，どんなに表土が飛んでも，風害があっても，残った人達の努力と忍耐とは，敬服するものでありました。耕地防風林を作るために，ポプラや落葉松を植樹すると共に，堆肥の増産に精を出し，漸次強風をおさえ，土地を改良した訳であります。現在，斜里町で，耕地防風林の出来ている処は，越川と同じ条件にあります。しかし，未だに春先の強風の時，耕土の飛散する処がありますが，一日も早く，耕地防風林を設置して，強風を防止したいものと思います。」

## ②清里町

- ・清里町神威東開拓 80 年の歩み（清里町第 13 営農集団清里町神威東自治会，1995，p. 16）「この頃例年のように春の蒔きつけ頃には大きな風害があり，特に萱野地区は被害が大きく悩みの一つでした。昭和 47 年度，甜菜の風害は大きな被害となり，更には馬鈴薯種が畝なりに出てしまい，蒔いた肥料も飛ばされてしまい，自然の力に驚くばかりでした。一方農地造成事業があり，山，傾斜地を畑にする事業がどんどん進み，耕地防風林も少なくなり，風害の要因ではないでしょうか。農機具も年々大型化されて，一枚の畑も大きくした事にも原因なのかもしれません。」

## ③小清水町

- ・やむべつ原野 遥かな人（平山，2014，p. 155）「五十間隔で父母達が手植した，カラマツの耕地防風林が村の畑地と家を囲んでいた。一戸分 5 ha の畑実面積は四・八 ha 程となるのである。それは，強風から作物を護ると同時に，北から吹き込むオホーツク海高気圧がもたらす冷たい風を防ぎ，畑地の年間積算温度を高目に護ろうとする，父母達の知恵の結晶でもあった。」
- ・郷土史“なかとみ”（中斗美地区郷土史編集委員会，1985，p. 43，pp. 136～138）「昭和の初期には小清水村として風害を防ぐため耕地防風林設置を奨励し落葉松を植えさせた。」「本町は地理的条件から風害の禍いをうけやすいので，特に耕地防風林を主として造林に意を注いできた。古くは昭和二年に樹木乱伐のため播いた馬鈴薯が転がるほどの風害を受け，長野県からカラマツを移入して移植したことがある。」「耕地防風林の重要性はほとんど全耕作者に認識せられ，概して完備しつつあるが，老樹は伐採されるために，この補植をしながら，地形と風向を考慮した植樹をするようにしてきた。」「その頃，風の吹く年は耕地風防も貴重な存在と思っていたけれども，風のない年は耕地風防林も邪魔に感じている。」

## 風害とカラマツ耕地防風林の関係に関するその他の記述

カラマツの耕地防風林と風害の関係について言及しているが、防風効果について確実には読み取れない記述について、市町村ごとに文章を原文のまま「」内に転記して紹介します。

### ①網走市

- ・開基六十周年記念 音根内部落史（音根内部落史編纂委員会，1968，p.134）「耕地防風林設置では毎年春風の襲来で耕地の飛散が甚しく、瘦地化して行くことを憂い、この対策として昭和三十三年より五カ年間、活動費の中から『カラ松』苗木を購入し、農協営農課の協力を得て設置場所を定め、五万本のうち音根内二万本の植林を完了した。」

### ②斜里町

- ・斜里町史（斜里町史編纂委員会，1955，pp.491～492）「殊に大正時代の風害によつて、樹木と営農の関係を痛切に感じさせられた本町は、造林については他町村とはちがった切実さがあつた。」「かうして昭和八年からは農事実行組合に対して、防風林用の苗木養生に対して助成金を出して、防風林の苗木を育成し、九年にはポプラ二二三，五〇〇本を一九六，七三〇間に植樹し、翌一〇年にはポプラの他に落葉松・独逸唐檜など一六六，〇二〇本を六六，二四一間に、一一年にはヤチダモも加へた一三四，六八七本を四六，三〇〇間に植樹するなど耕地防風林は活発に急激に行はれ、大体昭和一五年までに防風林は一応の成果をあげ、この他に荒廢地の造林や学校林をつくることによつて、学童に営林思想を植ゑつけるなど造林事業が活発に行われた。」
- ・楡の記憶－峰浜小学校閉校記念 峰浜・日の出百年誌－（峰浜小学校百年の歩み・閉校記念事業協賛会，2014，p.84）「また、冷害や風害を避けるための耕地防風林の造成が進んだのもこの時代の特徴であったという。」
- ・開基九十周年 開校八十周年記念郷土史 以久科（記念誌編集委員会，1988，p.115）「雪が吹き溜るように表土が五，六尺も吹き溜りができたという。手のほどこしようのない烈風ではあつたが、昭和年代になってからは耕地防風林を入れるようになった。」

### ③清里町

- ・清里町史（清里町史編纂委員会，1978，p.220）「地勢と気象のいたずらと片づけられないのが、本町における風害である。春の季節風と比較的少い年間降雨量が多少異常を示すと、たちまちにして災害となるわけで、昭和四十七年の風害は特に甚大であつた。」「町では、耕地防風林を強化するため、全農家にカラマツ苗木約四〇万本を無料で配布している。」

### ④小清水町

- ・小清水町史（小清水町史編纂委員会，1955，p.72）「樹木乱伐の為各処に風害を来たし、村役場はこの予防策として耕地防風林設置の計画を立て、落葉松苗床を作つたがその伸びが余りよくないので、更に本州長野県から落葉松を移入し配布移植させた。」
- ・小清水町百年史（山地，1981，pp.547～548）および新小清水町史（小清水町史編さん委員会，2000，p.328）「本町は地理条件の影響で風害、飛砂害、潮害などの禍いをうけやすいので、特に耕地防風林を主として造成に意を注いできた。古くは昭和二年に樹木乱伐のため、播いた馬鈴薯が転がるほどの風害を受け、長野県から落葉松を移入して移植したことがあり、その後も薪炭備林と併せて耕地防風林の造成を奨励してきたが、昭和二五年度『産業事業成績書』にも、耕地防風林の状況として、次のことが記載されている。耕地防風林の重要性は殆ど全耕作者に認識せられ概して完備しつつあるも老樹は伐採せられるを以て、此れらの補植及び地形等を考慮してその全きを期す様奨励に努めり。」

## まとめ

全部で 59 件の文献を調査したところ、春耕期におけるカラマツ耕地防風林の防風効果を高く評価しているものが 7 件、カラマツの耕地防風林と風害の関係についての記述はあるが防風効果について確実には読み取れないものが 8 件ありました。しかし、カラマツの耕地防風林の防風効果について充分では

ないとしているものは、みつけることができませんでした。

十勝平野ではおおむね 5 月上旬にカラマツが開葉しますが (大島ら, 2002), 斜里平野は十勝平野よりも北に位置しているのでカラマツの開葉時期はさらに遅く, 5 月 19 日頃となります (廣川・鈴木, 2006)。その後, 多数の葉が輪のようについている輪生葉 (短枝葉) の展開には 3 週間程度を要します (廣川・鈴木, 2006)。したがって, カラマツが短枝葉の展葉を終えるのは十勝平野では 5 月下旬, 斜里平野では 6 月 9 日頃 (廣川・鈴木, 2006) となります。十勝平野では春耕期に風害を受けやすい 4 月下旬~6 月中旬 (十勝郷土研究会新十勝史編集委員会, 1991; 北海道立十勝農業試験場, 1976; 清水町史編さん委員会, 2005) のうちカラマツが開葉前か葉がまだ伸びきっていない期間が半分程度ですが, 斜里平野では強風を受けやすい 4 月後半~6 月中旬 (斜里町史編さん委員会, 1970; 峰浜小学校百年の歩み・閉校記念事業協賛会, 2014) のうちその期間がほとんどとなります。今回の郷土資料の調査によって, その斜里平野においても, 春耕期におけるカラマツ耕地防風林が優れた防風効果を発揮してきたと認識されていたことがわかりました。地理的にかなり離れた両地域において, 春耕期のカラマツ耕地防風林の防風効果が同じように高く評価されてきたことは, 開葉前や開葉直後のカラマツに高い防風効果があるということの非常に説得力のある証拠と考えられます。

### 謝辞

郷土資料の調査でお世話になった網走市, 斜里町, 清里町, 小清水町の市町立図書館の職員の方々に厚く御礼申し上げます。

(保護種苗部保護グループ)

### 参考文献

- 廣川純也・鈴木悌司 (2006) カラマツ人工林における光環境の季節推移と侵入広葉樹の伸長パターンとの関係. 第 117 回日本森林学会大会講演要旨集, 日本森林学会, 東京都.
- 北海道立十勝農業試験場 (1976) 十勝農業試験場 80 年のあゆみ. pp. 248, 北海道立十勝農業試験場, 芽室町.
- 峰浜小学校百年の歩み・閉校記念事業協賛会 (2014) 楡の記憶—峰浜小学校閉校記念 峰浜・日の出百年誌—. pp. 359, 峰浜小学校百年の歩み・閉校記念事業協賛会, 斜里町.
- 中川昌彦 (2018a) 斜里平野の郷土資料に遺された春耕期のカラマツ耕地防風林の防風効果に関する証言. 森林計画学会誌 52 : 27-32.
- 中川昌彦 (2018b) 十勝地方の郷土資料における春耕期のカラマツ耕地防風林の防風効果に対する認識. 森林計画学会誌 52 : 15-26.
- 中川昌彦 (2019) 十勝地方の郷土資料における春耕期の風害とカラマツ耕地防風林に対する地元の認識. 光珠内季報 189 : 10-15.
- 大島紹郎・鳥田宏行・徳田佐和子 (2002) 耕地防風林における樹種別の特性評価. 平成 13 年度北海道林業試験場年報, p. 63, 北海道立林業試験場, 美唄市.
- 斜里町史編さん委員会 (1970) 斜里町史第二巻. pp. 1053, 斜里町役場, 斜里町.
- 清水町史編さん委員会 (2005) 清水町百年史. pp. 1341, 清水町, 清水町.
- 十勝郷土研究会新十勝史編集委員会 (1991) 新十勝史. pp. 785, 十勝毎日新聞社, 帯広市.